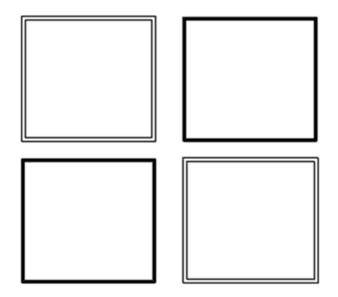
令和4年度年間指導計画 (1年生用シラバス)



富山県立高岡工芸高等学校

■目 次■

国 語 —————— 1	工業(機 械 科) — 15
地歷公民 —————————————————————3	工業(電子機械科) — 17
数 学 — 4	工業(電 気 科) — 19
理 科 ———— 6	工業 (建 築 科) — 21
保健体育 ————————————————————————————————————	工業(土木環境科) — 23
芸 術 ——— 11	工業 (工 芸 科) — 25
外国語 ————————————————————————————————————	工業 (デザイン・絵画科) 29
家 庭 ———— 14	

	令和4年度年間指導計画(シラバス)										
	新編言語文化 第1学年										
	・生涯に	こわたる	る社会	生活に必要な国語の	知識や技能	を身に付けるとともに、	我太	ド国の言語文化に対する理	里解を	深めるこ	
年間	とがつ	できる。	ように	する。							
十旬	論理的	的に考え	えるナ	や深く共感したり豊	かに想像し	たりする力を伸ばし、化	也者と	との関わりの中で伝え合う	う力を	高め、自	
目標	分の原	まる。	考えを	広げたり深めたりす	ることがで	ぎるようにする。					
日/示	・言葉	がもつ値	西値へ	の認識を深めるとと	もに、生涯	にわたって読書に親しみ	タ自己	己を向上させ、我が国の言	言語文	化の担い	
	手とし	しての	自覚を	さち、、葉を通して	他者や社会	に関わろうとする態度を	を養	ō.			

月	学習項(単元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
4	随想1 生きる喜び さくらさくらさくら		理解を依める。	定期考査の成績、 補助プリントや課 題等の提出状況、	中
5	古文入門 古文の 古文に親しむ 古文学習のし 古文の言葉 児のそら寝		・古文と別代文との違いを知り、古文を読む基礎となる文語のきまりを	授業への取り組みなどで総合的に評価する。	
6	小説1 触れ合う とんかつ	心心		定期考査の成績、 補助プリントや課	期
7	漢文入門 漢文に親しむ 訓読の基本 訓読・格言 ○言語活動 漢字の読みと意味—漢和 辞典を活用しよう		・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・漢和辞典の使い方を知り、漢字の読みと意味の関係について理解する。	題等の提出状況、 授業への取り組み などで総合的に評 価する。	
1	学期授業週数	1 2			

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	随想1 生きる喜び 「美しい」ということ ◇エッセイを書く 随筆 日々の思い 徒然草 亀山殿の御池に 奥山に、猫またとい ふものありて	える。	定期考査の成績、 補助プリントや課 題等の提出状況、 授業への取り組み などで総合的に評	,
10	小説 2 葛藤する心 羅生門 ○言語活動 元になった古典作品と読み 比べよう	・極限状態にある登場人物の心理の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。 ・古典を本にして作られた作品と、元の作品を読み比べ、理解を深める。	価する。	間

11	漢文入門 漢文に 故事成語―三編 守株・	親しむ 五十歩百歩	・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。		
12	詩歌 うたの心 折々のうた 万葉集・古今和 和歌集 古文学習のしるべ ○言語活動 短歌	5 和歌	・詩歌に表れたものの見方、感し方、考え方を読み取る。・自分の感じたことや伝えたいことなどを、古典的技法に倣って短歌にし、	定期考査の成績、 補助プリントや課 題等の提出状況、 授業への取り組み などで総合的に評 価する。	
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

9	1 '// 1						
月	学 習 項 (単 元	• •		学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1	物語 古人の生きる 伊勢物語 芥川	方	・歌物語に描かる	1ている内容	でを、 叙述を基に的確に捉える。		
	漢詩 漢詩を味わり 絶句と律詩―七章 漢文の窓② 漢詩の まり	首			れた表現に親しむ。 渚の心情を読み取る。	定期考査の成績、補 助プリントや課題等	
2	詩歌 命をうたう 柳あをめる【短題 I was born		読み取る。		を理解し、言葉にこめられた情景や心情を ージに託された生命への思いを深く味わう。	の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	1 ' 1
3	雪の深さを【俳句	司】	・俳句独自の特徴 取る。	数と表現効果	を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み		
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との 関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ 価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おう としている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)											
教 科 名	国 語	国語 科目名 言語文化 教科書 新編言語文化 (2 東書言文 701) 学年組 第1学年 16H·17H 位数数										
	・生涯にわたる	る社会	生活に必要な国語の	知識や技能	色を身に付けるとともに、	我太	「国の言語文化に対する理解を表現する理解を表現する」	里解を	深めるこ			
年間	とができる。	ように	する。									
十一町	・論理的に考	えるナ	プや深く共感したり豊X	かに想像し	たりする力を伸ばし、他	者と	この関わりの中で伝え合う	う力を	高め、自			
目標	分の思いや	考えを	広げたり深めたりす	ることがて	できるようにする。							
日保	・言葉がもつ	価値へ	の認識を深めるとと	もに、生涯	Eにわたって読書に親しみ	自己	己を向上させ、我が国の言	語文	化の担い			
	手としての	自覚を	もち、言葉を通して	他者や社会	除に関わろうとする態度を	養	Ō.					

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
5	随想1 生きる喜び さくらさくらさくら ○言語活動 「花」といえば「桜」? 古文入門 古文の世界へ 古文に親しむ 古文学習のしるべ1 古文の言葉と仮名遣い 児のそら寝 古文学習のしるべ2 古語を調べるために	・古文の代表作品の冒頭を音読し、それぞれの文章のリズムや調子の違いを感じ取る。 ・古文と現代文との違いを知り、古文を読む基礎となる文語のきまりを理解する。	定期考査の成績、 補助プリントや課 題等の提出状況、 授業への取り組み などで総合的に評 価する。	
6 7	小説1 触れ合う心 とんかつ 小説の読み方 漢文入門 漢文に親しむ 訓読の基本 訓読・格言 ○言語活動 漢字の読みと意味—漢和 辞典を活用しよう	・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・漢和辞典の使い方を知り、漢字の読みと意味の関係について理解する。	定期考査の成績、 補助プリントや課 題等の提出状況、 授業への取り組み などで総合的に評 価する。	
1	学期授業週数 12			

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	随想1 生きる喜び 「美しい」ということ ◇エッセイを書く 随筆 日々の思い 徒然草 亀山殿の御池に 奥山に、猫またとい ふものありて 小説2 葛藤する心	・古文の表現に慣れ、随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。・極限状態にある登場人物の心理の変化を、場面の展開に即して読み取	定期考査の成績、 補助プリントや課 題等の提出状況、 授業への取り組み などで総合的に評 価する。	,
	羅生門 ○言語活動 元になった古典作品と読 み比べよう	り、主題を考える。 ・古典を本にして作られた作品と、元の作品を読み比べ、理解を深める。		

11	漢文入門 漢文に 故事成語―三編 守株・五十歩百		・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。		
12	詩歌 うたの心 折々のうた 万葉集・古今和	- (A)	・詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	定期考査の成績、 補助プリントや課 題等の提出状況、 授業への取り組み	
	和歌集 古文学習のし ○言語活動 短歌	ンるべ5 和歌 ぶを作る		などで総合的に評価する。	末
	2学期授業週数 15				

3 学期

	1 7 9 1						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
2	-	・筒井筒 るべ4 う う 首 の形式とき 歌】	・漢詩を繰り返し・漢詩にうたわれ・短歌独自の特別読み取る。・散文詩を読み、	ン音読し、優 れた情景や作 数と表現効果 蜉蝣のイメ 吹謡曲の歌詞	を、叙述を基に的確に捉える。 された表現に親しむ。 された表現に親しむ。 された表現に親しむ。 された情を読み取る。 された情景や心情を された生命への思いを深く味わう。 これも見られる表現技法について知り、散文	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	年
3	考えよう 3 雪の深さを【俳句】		・俳句独自の特徴 み取る。	数と表現効果	是を理解し、想像力を働かせて句の主題を読		
	3 学期授業週数 8		年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む 態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ 価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おう としている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)											
教 科 名	公	公民 科目名 公共 教科(104 数研 公共708) 学年組 11H~17H 単位数										
年間目標	良識なう。	ある公	民とし		問題から	グロー	バルな問題に			的に考察し、公正に判)なかで主体的に行動す		力を養

T -1					
月	学 習 項 (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
	第2章 公共的な3 おける人間と あり	作る私たち 空間に としての の方生き方	・近代科学の考え方や人間の尊厳、現代の地球環境問題について討論を通じて理解する。	授業への取り組 み方、提出物およ び考査の結果を 総合的に判断す る。	甲
6				授業への取り組み方、提出物および考索の法関か	期
7	評価と学習内容の確	雀認		び考査の結果を 総合的に判断す る。	末
1	学期授業週数	1 2			

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	第4章 現代の民主政治と 政治参加の意義	・国会・内閣・裁判の仕組みと役割について理解する。 (模擬民事裁判の実践)		
10		(同文王はとこまで政任に関474で307/7、正して生産する)	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に	甲
	考査実施と学習内容の確認	・考査後には、学習した内容の理解を確かなものにする。	判断する。	間

	第5章 現代の経	済社会と 動のあり方	・市場経済の仕組みについて理解する。		
11	/ <u>1951</u> /11/11:	±91° 2 (8) 9 73	・国民所得と経済成長について統計データを用いて解明する。		
			・日本経済の発展を時系列に沿って理解する。		
12			り、日本経済が回復していったことを理解する。	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に	
			・消費者問題や公害対策、労働者の権利と現代の労働問題につい て、討論を通じて考察を深める。	判断する。	末
j	評価と学習内容の確認		・評価後には、学習した内容の理解を確かなものにする。		
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

_	1 1/1						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
	第6章 国際社会 日	の動向と 本の役割	・国際政治の	動向につい	って、理解する。		
1			・日本の安全	保障と軍統	の動きをめぐり話し合い、考察する。		
2			・経済のグロー る。	ーバル化と	: SDGs の関連性について理解を深め	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に	年
3	評価と学習内容の)確認	・評価後に	は、学習し	た内容の理解を確かなものにする。	判断する。	末
	3 学期授業週数	年間授業週数	3 5			,	

◎評価の観点及び内容

知識・技能	・現代における社会の課題を改善するための判断基準となる知識をしっかりと理解しているか。身近な生活の中から、自分に置き換えて生活しようと試みているのか。・自らの考えに疑問を投げかけ、資料集に留まらず、図書館に赴いて書籍資料を探索たりインターネットも活用して情報収集をして、知識を高めていたか。
思考・判断・表現	・現在に至るまでの歴史を振り返り、日本の視点から社会問題をみずから引き起こしてきたのかなど、問題の根本的解決に向けて自分なりに考察し、意見を表明しようとしていたか。・出来事に対して置かれている立場を理解した上で、自分には何ができるのかを考察し、 積極的に表現したか。
主体的に学習に取り組む 態度	・公共の学習に関心を持って取り組み、自ら調べて理解しようと努力していたか。・発問に対して、意欲的な姿勢を見せていたか。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)									
教 科 名	数学 科目名 数学 I 数学 I 要有量 数研出版) 学年日 1年1~5組 位数研出版) 数数									
年間 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、 事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。										
目標										

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
4	第1章 数と式第1節 式の計算	ことができるようにする。 式の展開では2次までの公式を扱う。	定期考査の成績、小 テスト、プリントな どの提出物の内容な どで評価する。	中
5	第2節 実数	有理数、無理数、分母の有理化などの高校で初出の用語の定着をはかる。 絶対値の記号の扱いに慣れること。式を目的に応じて変形したり、見通しをもって扱ったりすることができるようにする。		間
6	第3節 1次不等式	な内容を理解すること。	定期考査の成績、小 テスト、プリント、 授業ノート、宿題ノ	
7	第2章 集合と命題	集合の概念や和集合、共通部分、部分集合、補集合などの集合に関する基本的な事柄を理解する。 命題と条件の概念を学び、命題と集合の関係や命題とその逆、対偶などの直偽を求める。証明に対偶を利用する場合と、背理		
	1 学期授業調数 1 2	広を利用する場合を与え、同風にあつに証別広を見づける。		末

2学期

月		学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	第1節	2次関数 2次関数とグラフ 2次方程式と 2次不等式	2次式の平方完成を導入し、2次関数のグラフを書くための式変形を定着させる。2次関数の値の変化をグラフで調べることにより、最大・最小を求める。 2次関数の決定に関連して、連立3元1次方程式を解けるようにする。 2次関数のグラフとx軸の共有点のx座標が2次方程式の解である。 また、2次関数のグラフとx軸の位置関係を利用して2次不等式を解く。	定期考査の成績、小 テスト、プリントな どの提出物の内容な どで評価する。	
10					

11	第4章 第1節 第2節	三角比	理・余弦定理	正接の意味を理解する。 座標を用い、鈍角にまで角を拡張して、三角比を定義する。 正は字理・合は字理を用いて、三角形の辺の長さら、角の	定期考査の成績、小テスト、プリント、 授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する 意欲や授業態度などで評価する。	期
12						末
	2学期授業	週数	1 5		1	

3 学期

_	1 //1						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1 2	第5章 データ		がたくさんあ それらの数 予測に役立て 2つの変量 にあるとき正	る。 量の関係を ることがて の間に一大 の相関があ	である。 「が増加すれば、他方が増加する傾向 っるという。一方が増加すれば、他方	定期考査の成績、小テスト、プリント、 授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する 意欲や授業態度などで評価する。	学
3							
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり、目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて 判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したり しようとする態度や創造性の基礎を養う。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)											
教 科 名	数学	科目名	数学 I	教科書	高等学校 数学 I (104 数研 数 I /715)	学年組	1年 6.7組	単位数	2			
年間目標			命題及び2次関数につい 培い,数学のよさを認識									

1 -	子 ·別				
月	学 習 項 (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
5	第1章 数と式 第1節 数と式 1. 多項式で 2. 多項式で 3. 展開の2 4. 式の展 5. 因数分	の加法・ 咸法・乗法 公式 開の工夫	と実連れけて、多面的に捉えたり、目的に応して適切に変形し たりする力を培う。	定期考査の成績、 小テスト、プリント などの提出物の内容 などで評価する。	中間
7	第2節 実数	不等式 の性質 等式の解き 等式	新にういての理解を保める。その際、美級が四則便算に関して 閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることな どについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができ るようにする。	定期考査の成績、 小テスト、プリント、	
	1 学期授業週数	1 2			

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	第2章 集合と命題 1.集合と部分集合 2.共通部分,和集合, 補集合 3.命題と集合 4.命題と証明	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	定期考査の成績、小テスト、プリントなどの提出物の内容などで評価する。	甲
10				

11 12	第3章 2次関数 第1節 2次関 1. 関数 2. 関数とク 3. y=ax²の 4. y=ax²+の 5. y=a(x-a 6. y=a(x-a 7. y=ax²+り 8. 2次関数の 9. 2次関数の	数とグラフ ・ラフ ・グラフ ロのグラフ ロ) ² のグラフ i) ² +q のグラフ ox+c のグラフ の最大・最小	2 次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、 2 次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。 2 次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2 次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。	期
	2 学期授業週数 1 5			

3 学期

_	1 \\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \						
月	学 習 項 (単 元	* *		学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1	第2節 2次方 2 10.2次方程	次不等式		2 次関数	式の解と2次関数のグラフとの関係に のグラフを用いて2次不等式の解を求		
1	11. 2 次関数		(A) D(11/2) T (A)	~ 9 Ø₀		定期考査の成績、 小テスト、プリント、 授業ノート、宿題ノ	1 1
2	12. 2 次不等 13. 2 次不等					ートなどの提出物の 内容、学習に対する	
3						意欲や授業態度など で評価する。	末
	3学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			1

	数と式、集合と命題及び2次関数について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む 態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断 しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようと する態度や創造性の基礎を養う。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)											
教 科 名	理科 科目 物理基礎 科科 A 7 実教 物基 704 高校物理基礎 学年 11,12,13,14,15H 位位 2 数											
年間目標					々なエネルギーに関わり,理 めに必要な資質・能力を育成			通しを	もって観			

_ ,	791				
月	学 習 5 (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
5	1章 物体の運動 1節 運動の表	•	る。 ・空気抵抗がなければ、質量や体積によらず、一様に自由落下運動をすることを理解する。	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に 判断する。	
6	1章 物体の運動 2節 力と運動	•	 ・力とは何か理解する。 ・重さと質量の違いを理解する。 ・固体には弾性があり、一般にはフックの法則に従うことを理解する。 ・力の合成、分解、つりあいなど、力の性質を理解する。 ・作用反作用の法則を理解する。 ・摩擦力、抵抗力、浮力などのさまざまな力について理解する。 ・慣性の法則を理解する。 ・力と加速度の関係を理解し、運動の法則を理解する。 ・運動方程式を立てて、物体の運動のようすを調べる。 	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に 判断する。	
	学期授業週数	1 2		<u>I</u>	

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	2章 エネルギー 1節 運動とエネルギー	・エネルギーと仕事の基礎概念を理解する。・仕事と仕事率について理解する。・運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し、一定の条件のもとで力学的エネルギーが保存することを理解する。	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に 判断する。	
10	2章 エネルギー 2節 熱とエネルギー	・巨視的に見た熱の正体、微視的に見た熱の正体を理解する。・物質の三態や温度について理解する。・熱容量や比熱について理解する。・熱力学第一法則について理解する。・熱機関について理解する。・不可逆現象について理解する。	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に 判断する。	間

11	3章 波		・波とは、媒質の振動が次々と時間をかけて伝わっていく現象であるこ		
	1節 波の性質		とを理解する。		
			・波の速さの式 $v = f\lambda$ を理解する。		
			・波には横波と縦波があることを理解する。		
			・波の反射について理解する。		
	2節 音と振動		・音の伝わり方は、波の性質を示すことを理解する。		
			・定常波の知識から、発音体の振動を理解させ、そこから発せられる音		
			との関係を考えられる。	授業への取り組み	期
12			・波の重ねあわせから、うなりについて理解する。	方、提出物および考	
			・気柱の共鳴や共振について理解する。	査の結果を総合的に	
	4章 電気		・静電気について、理解する。	判断する。	末
	1節 物質と電流	流	・電流と電気量について理解する。		
			・オームの法則や電気抵抗の直列接続、並列接続について理解する。		
			・金属の抵抗率について理解する。		
			・半導体の基本的な性質について理解する。		
			・半導体はさまざまな機器で利用されていることを理解する。		
			・電力・電力量やジュールの法則について理解する。		
		T			
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

月	学 習 項 (単 元	•		学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1	4章 電気 2節 磁場と電流	ī	・電磁誘導につい・直流と交流の通				
2			・送電と変圧につき・家庭での交流の・電波の性質につき	授業への取り組み 方、提出物および考			
3	5章 物理と社会 1節 エネルギー	-とその利用	・物質の基本的が ・放射能・放射総	は構成単位と 象について理	・ギー保存の法則について理解する。 ・して,元素や原子核について理解する。 性解する。このとき,放射能・放射線の単位 と性についても理解する。	査の結果を総合的に 判断する。	
	3 学期授業週数	年間授業週数	3 5				

◎評価の観点及び内容

知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた 結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。
主体的に学習に取り組む 態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に 探求しようとしている。

			令和4年度年	F間	指導計画(シ	ラ	バス)		
教 科 名	理科	科目名	科学と人間生活	教科書	7 実教 科人 702 科学と人間生活	学年組	16,17H	単位数	2
	を通して理解す	る。ま	た、自然の事物・現象を科	学的に	活に果たしてきた役割につい 探究するために必要な資質・ える見方や態度を身につける	能力		.,	

•	7.81				
月	学 習 項 (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
5	1章 科学と技術の 1. 科学と技術の 2. 海 3. 土 2章 物質の科学 1節 材料とその 1.生活の中のさま	始まり 注 再利用	白の口がのではの地所では、この地所は、このようなようで	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に 判断する。	,
6	 金属 プラスチック セラミック 本命の科学 は、ヒトの生命 	:	・金属の性質や特徴、用途について理解する。 ・プラスチックの性質や特徴、用途について理解する。 ・セラミックの利用は、古代から現代まで結び付けられることを理解する。 ・金属、プラスチック、セラミックの製造には多量の原料やエネルギーが必要であることを理解する。 ・ヒトの眼の構造や仕組み、はたらきを理解する。	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に	
7	1. 私たちの生活	環境と眼 動と健康の維持	・ヒトの体内環境の調節について理解する。 ・免疫機能の仕組みについて理解する。 ・DNAの構造について理解し、転写、翻訳によってタンパク質が合成され生命現象を支えていることを理解する。	判断する。	末
	子别授美媳奴	1 2			

2学期

月	学習項目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9 10	4章 光や熱の科学 2節 光の性質とその利用 1. 光 2. 電磁波の利用	しているかについて、光の3原色や人の視見と関連付けて考えるとともに、色を感じる仕組について理解する。 ・光の回折、干渉という波特有の性質や光の偏光について理解し、その	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に 判断する。	中

11	5章 宇宙や地球の	の科学	・プレートテクトニクスについて理解を深め、そのはたらきによってつ		
	2節 身近な自然	景観と自然災害	くられる様々な地形について理解を深める。		
	1. 身近な景観のた	なりたち	・地震や噴火の発生するメカニズムについて理解し、断層運動や火山活		
	2. 地球内部のエク	ネルギー	動によってつくられる様々な地形について考える。		
	3. 自然の恵みと自	熱災害	・東日本大震災を題材として、地震や津波のようすを理解するとともに、		
			被害を減らすための対策について自ら考える。		
12			・災害から命や社会を守るための対策について自ら考える。	授業への取り組み	期
				方、提出物および考	
				査の結果を総合的に	
				判断する。	末
		T			
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
2	6章 これからのない。 (課題研究等)	科学と人間生活	の関わりについ ・課題研究にあた 生活にも目を向い	て探究させる たっては、授 ナて課題の設 学ぶことも大	** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に	年
3	o W Hell SallArm W			0.5		判断する。	末
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた 結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。
主体的に学習に取り組む 態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に 探求しようとしている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)								
教 科 名	保健体育	科目名	保健	教科書	現代高等保健体育 701	学年組	1年全	単位数	1
			ける健康・安全に関す 質や能力を育てる。	つる:	理解をとおして、生涯	を	通じて自ら健康を適	切に	管理し、

月		学 習 (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
4567	2 科 3 科 4 生 5 が 6 が 7 運 8 食	たちの健	え方と成り立ち 康のすがた の予防と回復 と予防 と回復	健康の保持増進のために必要な生活行動や疾病の 予防について、科学的に理解し、日常生活の課題 解決に役立つ知識を身に付ける。		
	1 学期授業		1 2			

2 学期

月	学 (単	習 項 目 元 名)	「「「「「「」」」「「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」						
9 10 11 12	16 現代の感 17 感染症の 18 性感染症 19 健康に関	と健康 の特徴 の予防 からの回復 染症	を科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付ける。	評価は、主に定期者本の民徒40	期末				
:	2 学期授業週数 1 5								

3 学期

月			項 目 元 名)		ž	学習のねらい (内容)		評価	方 法	考査 範囲
2	20 21 22 23 24 25 26	事故の現状と 安全な社会の 交通における 応急手当の意 日常的な応急 心配蘇生法 まとめ	形成 安全 義とその基本	やそのP 課題解	防止対策 快を通し	通事故などによる傷、応急手当の意義や、 て科学的に理解し、 知識を身に付ける。	手順について、	績、提出 活動への 方や態度 価する。 2 学期 直は、 養の成績 出物 30%	参などので 全体に 40%、 (人力・ 40%、 (人力・ 30%を を 30%を で 30%を で 30%を で 30%を で 30%を るいかで 30%を 3	学年末
	3 学期	明授業週数	8	年 間	3 5					

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	自他の心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。
思考・判断	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。
	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康 と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立 つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)									
教 科 名	保健体育	科目名	体育	教科書	アクティブスポーツ 2022	学年組	1年全女子	単位数	2	
年間目標	(1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 (2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、 体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。								てる。 こもに、 」して責	

月	学 習 項 F (単 元 名		学習のねらい (内容)	評	価方	去	考査 範囲
4	体育理論 体つくり運動 身		自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなど の体ほぐしの運動を中心に行わせる。 体力を高める運動も行い、体力の向上を目指させる。 また、自己の生活の中で計画的に実践していく資質や	ストの 種目の スト		実施 レテ こ実	
5	陸上競技 スポーツテスト バレーボール 柔道		能力を身に付けさせる。走跳投の理想的な技術を理解 し、実践をとおして個人の記録向上を目指させる。 球技では、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃 と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立て	加で評価で2 評価においます	エガヤ fi fiする。 学期全体 は、主にス くト 40%	は なって 、トロース 記	
	来追 剣道 より1種目選択			度なと	の仕方を ごで 30% E分で行	6程	
1	学期授業週数	1 2					

2 学期

月	学 習 項 (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
	体育理論		球技では、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃		
	体つくり運動		と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立て たり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。	業中に実施)、授 業への参加の仕	
	バレーボール		ダンスではリズムに乗って体を動かすことの楽しさ		
10	ソフトボール		を体験するとともに、自他の良さを認め合うことの大	2 学期全体の	
	ビーチボールよ	: り	切さに気づかせる。基本的なステップを身に付け色々	評価は、主にスキルテスト60%	
11	ダンス		なテーマからイメージや動きを捉えて即興的な動きが	22714 . 2 7111 .	
	柔道 剣道		できるようにさせる。	仕方や態度など で40%程度の	
12	より2種目選択	1		配分で行う。	
:	2 学期授業週数	1 5			

3 学期

月	学 習 項 (単 元				学習	冒のねらい (内容)		評価方法	考査 範囲
	体つくり運動 体育理論		し、攻撃	撃と阝	方御を展	、集団的技能や個人的技i 開し勝敗を争うことの中 することの楽しさや喜び	から、作	スキルテスト (授 業中に実施) 、授	
	バドミントン バスケットボー 柔道	- /レ	ます。					方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキ	
_	剣道 より1種目選択	5						ルテスト60%、 授業への参加の 仕方や態度など で40%の配分 で行う。	
3	3 学期授業週数	8	年	間	3 5				

◎評価の観点及び内容

知 識 •技 能	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動を合理的に行っている。
思考・判断・表現	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、 活動の仕方を考え、工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができるようにする。また、自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする中で、公正、協力、責任などの態度を身に付け、健康・安全に留意して運動を行おうとしている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)									
教 科 名	保健体育	科目名	体育	教科書	アクティブスポーツ 2022	学年組	1 年全男子	単位数	2	
年間目標	とともに (2)各種の選 体力の向 (3)運動にお	運動を 動を 上を るける	技能を高めることがで 適切に行うことによ 図り、たくましい心質 競争や協同の経験を	ごき つて すを 通し	課題を解決するなどにるようにし、生活を明ま、自己の体の変化にする。 こ、公正な態度や、近、、 は、公正な態度や、近い、 は、、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	月る 気 を 進ん	く健全にする態度を けき体の調子を整える いで規則を守り互いに	育て るとと に協力	る。 さもに、 」して責	

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい(内容)	評 価 方 法	考査 範囲
	集団行動	体力を高める運動も行い、体力の向上を目指させる。 また、自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能	ストの記録、実施 種目のスキルテ スト (授業中に実	
	バレーボール 柔道	ボールなどを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮 し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦 を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させ	で評価する。 2 学期全体の 評価は、主にスキ ルテスト 40%、ス ポーツテスト記	
		。 また、武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、 相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全	録 30%、授業への 参加の仕方や態 度などで 30%程 度の配分で行う。	
7	スポーツテスト	に留意して行わせる。		
1	学期授業週数 12			

2 学期

月	学 習 項 (単 元 2		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
	体つくり運動 体育理論		ボールなどを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させ	スキルテスト (授 業中に実施) 、授	
	サッカー バスケットボー	- ル	る。 また、武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、 相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全	する。 2 学期全体の 評価は、主にスキ	
	柔道 剣道 ダンス		に留意して行わせる。	ルテスト60%、 授業への参加の 仕方や態度など で40%程度の	
	より2種目選択 2学期授業週数	1 5		配分で行う。	

3 学期

1	体つくり運動		.12		学習のねらい (内容)						
2	体育理論 バスケットボー バドミントン 柔道	ル	し、攻撃と 戦を立てたり ます。 また、武道	方御を展) 工夫を [*] [では伝統		スキルテスト (授 業中に実施)、授 業への態度 が出 方や態度 する。 2 学期全体の					
3	無理 剣道 より1種目選択 3学期授業週数		全に留意して		5.	ルテスト60%、 授業への参加の 仕方や態度など で40%程度の 配分で行う					

◎評価の観点及び内容

知 識 •技 能	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動を合理的に行っている。
思考・判断・表現	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができるようにする。また、自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする中で、公正、協力、責任などの態度を身に付け、健康・安全に留意して運動を行おうとしている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)								
教 科 名	芸術	科目名	美術 I	教科書	38・光村・美I・701	学年組	11 12 13 14 15 16 17	単位数	2
年間目標	年間 1 自分のよさを発見し、美を感じ取る感性を高め、表現する楽しさや完成の喜びを感得させる。 2 表現及び鑑賞における幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。								

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
4	○オリエンテーション	美術を通して学ぶことを確認する。教科書等を使い、これからの美術の学習内容に関心を持ち、目的意識を明確にし、学習の意義や内容、評価等について理解する。	課題提出 ワークシート	
5	○風景のスケッチ	鉛筆を使った基本的な絵の描き方を学ぶ。 身近な物、風景を描く。 アクリル絵の具の使い方を知る。	課題提出 スケッチ 彩色	中間
	鑑賞①「身近なものを描 ○静物画		ماريد ا	[HJ
6	鑑賞②「アニメーション(品」アニメーション技法を使った表現方法について知る。	授業態度 レポート	
	○美術史 I	古代から中世にかけての美術、及びルネサンス期の美術。	鑑賞シート 小テスト	期
7	鑑賞③「空間をデザイン・ パブリックアート」	る・ 公共の場における美術作品について知る。	授業態度 レポート	末
	1 学期授業週数 1 2			

2学期

	1391			
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	鑑賞④「自画像」	様々な自画像を鑑賞し、表現の多様性を知る。	授業態度 ワークシート	
10	○自画像の制作アクリル絵の具による人物 画制作鑑賞⑤「芸術の仕事」	特徴、主題を踏まえて表現する。人の顔の基本的な形の捉え方や、明暗による立体の表現法を理解する。	課題提出 ワークシート 平面構成 授業態度	中間
			レポート	

	○美術史Ⅱ		ルネサンス以降の美術表現の展開	鑑賞シート	
11	鑑賞⑥「デザイナ	一一の仕事」	デザインの種類について知り、デザインの役割や、デザイナーの仕事について考える。	小テスト	
	○デザイン		デザインの種類と役割について知る。		期
12	○オリジナルの□	コゴマークの		課題提出	末
	制作		る。丁寧さを意識して着色を施す。	ワークシート デザイン	
	2学期授業週数	15			

3 学期

月	学習項(単元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1	鑑賞⑦「立体表明 ○美術史III 美術史まとめ	∄]	印象派以降、	現代美術	や素材の違いについて知る。 所に至るまで。 通して学んだ美術の歴史や、デザイ	授業態度レポート	学年
3				11201		小テスト	末
	3学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)												
教 科 名	外国語	科 目 名	英語コミュニケーションI	教科書	数研出版 COMET English Communication I	学年組	第1学年 1~5組	単位数	3				
目標	(1) 聞くこと ・多くの支援を活用。 (2) 読むこと ・多くの支援を活用。 (3) 話すこと[やり取り ・多くの支援を活用。 (4) 話すこと[発表] ・多くの支援を活用。 (5) 書くこと	thui, thui, thui, thui, thui,	基本的な語句や文を用いて、情報や考え	产把握 产把握 克,気	することができるようにする。	えるこ	とができるようにする。						

月	学 習 項 (単 元 名		学習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
4	オリエンテーション		・授業の進め方についてのオリエンテーションを受ける。		
			・Classroom English を練習する		
	Lesson 1		・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。	授業への取り組	
	Why Do You Study En	nglish?	・本文の内容(海外旅行サイトの掲示板の投稿者が日本で体験したこと)	み方、プレゼンテ	中
			について,学習した語彙や言語材料(文法事項 過去形)を用いて,自分の	ーション、小テス	
	Lesson 2	•	意見を話す/書くことができる。	トおよび考査の	
5	When Do You Feel Ha	ірру?	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。	結果を総合的に	
			・本文の内容(ダイキが熱中していること/ダンス)について、学習した	判断する。	間
			語彙や言語材料(文法事項 進行形)を用いて,自分の意見を話す/書くこ		
			とができる。		
6	Lesson 3		・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。		
	Onigiri Goes Overseas		・本文の内容(おにぎりの海外での人気)について、学習した語彙や言		
		•	語材料(文法事項 助動詞)を用いて,自分の意見を話す/書くことができ	授業への取り組	
			<u> వ</u> ం	み方、プレゼンテ	期
7	Lesson 4			ーション、小テス	
	Pictograms		・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。	トおよび考査の	
			・本文の内容(ピクトグラム)について、学習した語彙や言語材料(文	結果を総合的に	-
			法事項 不定詞)を用いて,自分の意見を話す/書くことができる。	判断する。	末
1	1 学期授業週数	1 2		1	

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
9	Lesson 5 Morita Yuko Hospital Facility Dog Handler	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容 (ファシリティドッグのハンドラー森田優子さん) について、 学習した語彙や言語材料 (文法事項 動名詞) を用いて、自分の意見を話す		
10	Lesson 6 Convenience Stores: Keys to Their Success		授業への取り組み 方、プレゼンテーシ ョン、小テストおよ び考査の結果を総合 的に判断する。	中

	Lesson 7 High School Aquariu		・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容(高校の水族館部の活動)について、学習した語彙や言語材料(文法事項 現在完了)を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。		
12	Lesson8 Smart Farming		・ 存いにの分類のでは、	授業への取り組み 方、プレゼンテーション、小テストおよ び考査の結果を総合 的に判断する。	期
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

_	1 731						
月	学 習 項 (単 元	·		学	習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
1 2	Lesson 9 Food Waste		み、概要や要点を把握することができる。 問題)について、学習した語彙や言語材料(文 自分の意見を話す/書くことができる。	授業への取り組み	当		
3	Lesson10 William and His Wi	・本文の内容(狙	虫学で発電の た語彙や言	み,概要や要点を把握することができる。)風車を作ったウィリアム・カムクワンバ)に :語材料(文法事項 関係代名詞)を用いて,自	方、プレゼンテーシ	年	
	3学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

<u> </u>	言語材料と言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて英語を活用できる技能を 身に付ける。
思考・判断・表現	情報を整理しながら、考えなどを形成し、英語で表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む 態度	積極的に言語活動を行おうとしている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)											
教 科 名	外国語	科目名	英語コミュニケーション I	教科書	数研出版 BIG DIPPER English Communication I	学年組	第1学年 6,7組	単位数	3			
年間目標	(1) 開くこと ・多くの支援を活用。 (2) 読むこと ・多くの支援を活用。 (3) 話すこと[やり取り ・多くの支援を活用。 (4) 話すこと[発表] ・多くの支援を活用。 (5) 書くこと	thui, thui, l) thui, thui, thui,	基本的な語句や文を用いて、情報や考え	於把握 於把握 於,気 え,気	けることができるようにする。	えるこ	とができるようにする。					

月	学習項目		学習のねらい(内容)	評価方法	考査
)1	(単元名))	子目 ()4 x り () 1 仕)	开 Щ 刀 伍	範囲
4	オリエンテーション		・授業の進め方についてのオリエンテーションを受ける。		
			・Classroom English を練習する		
	Lesson 1		・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。	授業への取り組	
	Have a Good Day wit	th a Good	・本文の内容(朝食の重要性など)について、学習した語句や文法事項を	み方、プレゼンテ	中
	Breakfast		用いて,自分の意見を話す/書くことができる。	ーション、小テス	
				トおよび考査の	
5	Lesson 2		・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。	結果を総合的に	
	A Mascot with a Mission	n	・本文の内容(ご当地マスコット(ゆるキャラ®)の役割など)について,	判断する。	間
			学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができ		
			వ 。		
6	Lesson 3		・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。		
	Two Kinds of Leadershi	ip	・本文の内容(2種類のリーダーシップなど)について、学習した語句や		
			文法事項を用いて,自分の意見を話す/書くことができる。	授業への取り組	11- m
				み方、プレゼンテ	期
7	Lesson 4		・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。	ーション、小テス	
	Older Sports and Newe	er Sports	・本文の内容(自分の好きなスポーツなど)について、学習した語句や文	トおよび考査の	
			法事項を用いて, 自分の意見を話す/書くことができる。	結果を総合的に	—
				判断する。	末
-	学期授業凋数	1 2			

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
9	Lesson 5 AI Meets the Arts	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容 (AI や AI による芸術など) について、学習した語句や文法 事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。		
	Lesson 6 What Is Happiness?	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容(日本と世界の幸福度など)について、学習した語句や文法 事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	授業への取り組み 方、プレゼンテーション、小テストおよ び考査の結果を総合 的に判断する。	中

11	Lesson 7		・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。	
	The Maldives: A Dream	n	・本文の内容(人気の観光地が抱える問題など)について,学習した語句	
	Destination?		や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	
	Lesson8 Kazu Hiro: In Pursuit o	of a Dream	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。	期
			<u>వ్</u>	末
	2学期授業週数	1 5		

3 学期

_	1 \\ \\ \) 1								
月	学 習 項 (単 元	•		学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲		
	Lesson 9 From Recycle to Upo	cycle	・本文の内容(さ	モッタイナィ	み,概要や要点を把握することができる。 / 精神やアップサイクル商品など)について, :用いて,自分の意見を話す/書くことができ				
2		3.	వ <u>ి</u> .						
	Lesson10 Diversity at Japanes	se Companies	・本文の内容(日本企業の履	み,概要や要点を把握することができる。 延用や,働きかたなど)について,学習した語 1人の辛見な話せくまくこしができる。				
			1977义依事項《	ど州いて, 目	分の意見を話す/書くことができる。	的に判断する。	末		
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5					

◎評価の観点及び内容

知識・技能	言語材料と言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて英語を活用できる技能を 身に付ける。
思考・判断・表現	情報を整理しながら、考えなどを形成し、英語で表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む 態度	積極的に言語活動を行おうとしている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)										
教 科 名	科 家庭 目 家庭基礎 科 高等学校 家庭基礎 年 第1字年 位 2 村 特続可能な未来をつくる 11~17日										
	1. 人の一生と家	族・家	庭及び福祉,衣食住,消費生活	舌・環境	などについて,生活を主体的に営む	したと	りに必要な基礎的な理解を図ると	ともに	こ, それらに		
年間	係る技能身に	付ける	ようにする。								
十旬	2. 家庭や地域な	ない社会	における生活の中から問題を見	見いだして	て課題を設定し、解決策を構想し、	寒	遠を評価・改善し、考察したこと	を根拠	心に基づいて		
目標	論理的に表現	計るな	ど、生涯を見通して課題を解れ	央する力を	を養う。						
日保	3. 様々な人々と	:協働し	, よりよい社会の構築に向けて	て、地域	社会に参画しようとするとともに,	自分	パ家庭, 地域の生活の充実向上	-を図る	うとする実		
	践的な態度を	き養う。									

月	学習項		学習のねらい(内容)	評価方法	考査
	(単 元 名	名)	1 1 200 200 (101)	H1 1144 >> 12-	範囲
4	○家庭科の学び方		・家庭科で何を学びどう学習活動をしていくのかを知る。		
			・各ライフステージの特徴と課題を理解する。		
	1章 これからの生き	方と家族	・将来の職業選択について考察し、生活設計を工夫する。	授業への取り	
	第1節 生涯の生活	設計	・有償労働・無償労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて考える。	組み方、提出物	中
			・固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家庭を築き、家	および考査の	
	第2節 家族・家庭	Eと社会との	族関係をつくる必要性を学ぶ。	結果を総合的	5
5	かかわり		・家族・家庭に関する基礎的な法律や社会の制度を学習し、現代の家族・家庭の	に判断する。	
	2章 次世代をはぐく	(む	理解を深める。		間
	第1節 子どもの発	隆	・胎児の環境や母体の安全管理の重要性と生命の尊さを知る。		
	第2節 子どもの生	活	・乳幼児の身体の発育や運動機能の発達の概要を理解する。		
			・子どもの発達に応じて基本的生活習慣や社会的生活習慣を身に付けさせる重		
6	第3節 子育て支援	爰と福祉	要性を理解する。		
			・心身の発達を促す遊びの必要性を知る。	授業への取り	期
	3章 充実した生涯へ	`	・子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。	組み方、提出物	//-
			・長くなった生涯を見通して、高齢期を捉えることができる。	および考査の	
	4章 ともに生きる		・高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解し、自立を援助することについて考える。	結果を総合的	
7			・高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える社会保障制度と課題を考) _末
(○家庭科の学びを広け	げよう	える。	(-1351) 20	714
	・ホームプロジェク	7ト (HP)	・ノーマライゼーションの実現のためにどのような取り組みが必要か考える。		
	・学校家庭クラブ活	舌動	・HPと学校家庭クラブ活動の意義と実践方法を理解する。		
			111 こ 丁 (人) / (月) / / (日) / / / / (大) / (T) /		
	1 学期授業週数	1 2			

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	ホームプロジェクト発表	・HPの取り組みについて理解を深める。		
10	6章 衣生活をつくる 第1節 人の一生と被服 第2節 被服材料と管理 第3節 これからの衣生活 5章 食生活をつくる 第1節 人の一生と食事	・織物と編物の違いを知り、各々の組織について理解する。	授業への取り 組み方、提出物 および考査の 結果を総合的	中間

	第2節 栄養と食	品	・環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。・栄養素の種類と働き、それらを含む食品について理解する。・調理加工食品や調味料・香辛料などの種類と働きを知る。		
11	第3節 食生活の	安全のために	・健康増進のための食品について基本的な理解を図る。・食品表示を通して各食品の選択法や保存法を身に付ける。・食中毒の種類を知り、食品の取り扱い、手の清潔、台所や調理器具の衛生などの面での注意事項について学ぶ。	授業への取り	
	第4節 食生活を	デザインする	・食品添加物の用途を理解し、食品の購入法を身に付ける。 ・健康の維持・増進、身体の成長のために必要な食事摂取基準を理解する。 ・ライフステージに合わせて栄養・し好・味わい・予算・調理時間などを考え	組み方、提出物 および考査の 結果を総合的	期
12	2 ○調理実習		・食品の選択・計量、器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。 ・日本料理・西洋料理・中国料理の盛り付けと配膳ができ、それぞれのマナー	に判断する。	末
	8章 経済生活をつ 第1節 私たちの		を心得て食事ができるようにする。 ・個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解する。・家庭の収入と支出を通して家計の構造を理解する。		
	2学期授業週数	1 5		- 1	

3 学期

	1 1/31									
月	学 習 項 目 (単 元 名)				一	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲		
1	第2節	消費者問	題を考える	・消費者として適	切な意思決定	定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取				
				っていこうとい	っていこうという態度を養う。					
	第3節	持続可能	な社会をめざ	・持続可能な社会	の実現のた	めには、私たち自身が環境に負荷を与えないよう				
		して		に工夫していく	必要性を理解	解する。	授業への取り	学		
2	・住まいは、異なる地域の気候や風土に応じてつくられたことを理解する。									
	7章 住生	活をつく	る	・家族の生活行為	と住空間と	のかかわり、生活行為や動作に必要な広さ、動線	および考査の	年		
	第1節	人の一生	と住まい	などについて理	解する。		結果を総合的			
				・日照・採光・通	風・温度・	湿度・遮音などの住環境が、健康な生活に大きな	に判断する。	末		
3	第2節	住生活の	計画と選択	影響を与えるこ	とを理解する	5 。				
				・住環境における	地域社会と	のつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活	! !			
	3 学期授業	週数	8	年間授業週数	3 5					

◎評価の観点及び内容

知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
王体的に学習に取り組む	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)									
教 科 名	工業	科目名	ものづくり学 工業技術基礎	教科書	7 実教 工業 7 0 1 工業技術基礎	学年組	1 1H	単位数	1 2	
年間目標	2 1の体験に基づき各分野における工業技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解するとともに、									

1 -	P.N			
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
4	計測 ・ノギスの理論と使い方 ・マイクロメータの理論と使い方・材料試験	・各種の測定器の名称と構造を理解させ、的確な寸法測定ができる。・基本的な工具の使用方法を習得させるとともに工具名や特徴等を学習する。・材料の試験方法を学習し、靱性(粘り強さ)などを測定することによって材料の機械的性質を理解する。		
5	② レーザー加工	・レーザの概要を理解し、非接触加工を体験する。先端技術に関する知識を深める。		
6	③ ねじ立て・けがき作業・穴あけ作業・ねじ切り作業	 ・けがきの仕方を習得する。 ・ドリルを用いた穴あけ作業を習得し、卓上ボール盤の各部の名称、基本的な穴あけ作業の手順を理解する。 ・軸にダイスでおねじを切る作業と穴にタップでめねじを切る作業を理解し、ねじ切りができる。 	提出物の内容、学習活動への取り 組み、態度によって総合評価します。	
7				
1	12			

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	旋盤加工 I ・作業における安全管理 ・バイトの取り付け ・送り機構の理解 ・穴加工 ・清掃の仕方、保全管理	・的確な工具の取り付け方、切削理論等を習得する。 ・工作機械の保全の仕方を習得する。	提出物の内容、学習活動への取り組み、 態度によって総合評価します。	
10	鋳造 (紙ばさみの製作) ・金属の融解と温度 ・鋳込みの速度調整 ・鋳造法	・鋳造法について理解させ、砂型を製作出来る。 ・アルミ合金の溶解を通して、金属材料の取扱いを習得し安全に 鋳込み作業が行える。		

11	旋盤加工Ⅱ ・作業における安: ・バイトの取り付 ・ノギスの理論と・マイクロメータの理論と	け 使い方	・基本的な工具の使用方法を習得させるとともに、工具名や特徴 築を学習する	
12				
	2学期授業週数	1 5		

3 学期

・ 方 スタの使い方 ・ 直流回路と交流回路 ・ 直流回路と交流回路 ・ 電子部品 ・ 半田付けの仕方 2 ・ 単田付けの基礎知識を身につけ、半田付けができる。		1 1/1						
・テスタの使い方 ・直流回路と交流回路 ・電子部品 ・半田付けの仕方 2 ・直流回路と交流回路の基礎知識を身につけ、特徴を理解 する。 ・電子部品の働きや使い方を学び、用途に応じて選定できる。 ・半田付けの基礎知識を身につけ、半田付けができる。	月				学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
	1 2	・テスタの使い方 ・直流回路と交流 ・電子部品	回路	直流回路と3する。電子部品の値る。	で流回路の	基礎知識を身につけ、特徴を理解 方を学び、用途に応じて選定でき	提出物の内容、学習活動への取り組み、 態度によって総合評価します。	
3 学期授業週数 8 年間授業週数 3 5	3	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技術	・工業の各分野に関する基礎的な知識と技能を身につけ、工業の発展と環境・資源などとの 調和のとれたものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技能を身につけ ている。
思考・判断・表現	・工業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして、広い視野からみずから思考し、基礎的な 知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現し伝える能力を身につけてい る。
主体的に学習に取り組む 態度	・工業技術について主体的に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに、 社会の発展に役立つ技術開発を積極的に学ぶ態度を身につけている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)											
教 科 名	工業	科目名	工業情報数理	教科書	7 実教 工業 718 工業情報数理	学年組	1 1 H	単位数	2			
年間目標	年間 1 データの表し方、論理回路、処理装置等について学習しコンピュータにおける情報の取り扱いについて理解を深める。 2 添加図 C言語によるプログラミングについて学習し、プログラムの処理手順、表現方法についての理解を深め											

1 寸	771			
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
4	1章 産業社会と情報技術	・コンピュータで扱う情報とその利用例などについて知る。		
5	6章 ハードウェア 1節 データの表し方	・2進数、10進数、16進数の相互変換や2進数の四則演算、補数計算を修得し、データ表現について理解する。	中間考査の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	中間
6	2節 論理回路の基礎	・基本論理回路の働きや特性ついて理解する。・コンピュータ内部の計算に関する回路を学び、論理回路の応用力を修得する。		
			期末考査の成績、 提出物の内容、学 習活動への取り 組み、態度によっ	期
7			て総合評価する。	末
1	学期授業週数 12			

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
9	3章 プログラミングの基礎			中
10			する。	間

11 12	5章 Cによう ング 1 Cの特徴 2 の削減 処理 3 選繰り返し 5 配列 6 関数	Dプログラ 心理	 ・プリプロセッサ機能等、C言語の特徴について理解する。 ・算術計算のプログラムにおけるプログラムの書式やデータ型、演算子などについて理解する。 ・選択、繰り返し処理について説明し、実際にプログラムが作成できるようになる。 ・配列による効果的なプログラム作成について理解する。 ・標準関係や別数や原り値、変数の影響が等について理解する。 	期末考査の成績、提 出物の内容、学習活 動への取り組み、態 度によって総合評価 する。	期
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

_	1 \(\lambda \)						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
	情報技術検定3級	时題演習	•情報技術検知	定3級合格	Sに相当する力を身につける。		
1			1 0, -				
	2章 コンピュー 作とソフトウェア				テムやワープロ等のアプリケーション 対な利用方法などについて理解する。		学
2	『Fとノノトリエノ 		ファトリエ	/ V/基件印	がよれ、カンスはというと、これで、生産がある。	提出物の内容、学習 活動への取り組み、	年
						態度によって総合評	' '
						価する。	末
3							
5							
	9 宗和松来油料	8	左則極業海粉	3 5			
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 3			

◎評価の観点及び内容

知識• 技術	情報に関する基礎的な知識と技術を持ち、社会における情報化の進展と情報の意義や役割、 情報化社会に生きる技術者としての使命を理解し、活用できるか。
思考・判断・表現	諸問題の解決を目指してみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができるか。
主体的に学習に取り組む態度	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心を持ち、その習得に向けて自ら意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけようとしているか。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)									
教 科 名	工業 科目名 ものづくり学工業技術基礎 教科書 工業技術基礎(7 実教・工業 701) 学年組 12H 単位数									
年間目標	年間 1 工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験します。 2 各分野における技術の興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解します									

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
	ものづくり学 ②ねじ切り作業 ③シーケンス制御 ③3D-CAD ③磁気実験	建築科、工芸科の生徒が10人1班、 1週3時限で4項目の実習をローテーションで実施する。 ・穴あけ、ねじ切りの基本作業を習得する。 ・接点やリレーの仕組みを習得する。 ・自己保持回路を理解する。 ・アプリケーションソフトを利用して、3D図面制作の基本作業を習得する。 ・磁界中の電流に働く電磁力を調べ、ルシケの左手の法則との関係を確認する。	下記項目にて総合的に評価 ・実習態度 ・実習報告書 ・課題	
7	工業技術基礎(電子機械科) ○磁気実験(基礎加工実習) ・簡易モーク動作実験 ③計測・試験(基礎加工実習) ・測定器具の使い方 ③溶接基礎(基礎加工実習) ・アーク溶接 ④穴あけ・ねじ切り加工 (基礎加工実習) ・文鎮の製作	 ・磁界中の電流に働く電磁力を調べ、ルシケの左手の法則との関係を確認する。 ・各種測定機器の使い方や測定値の処理方法などを身につける ・アーク溶接の基礎を理解し、ビードの仕方を習得する。 ・ボール盤やタップを用い、穴あけ加工やねじ切り加工の方法を身につける。 	下記項目にて総合的に評価 ・実習態度 ・実習報告書 ・課題	
1	1 学期授業週数 1 2			

2学期

	1 1/41			
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
9	○電気実習・テスターの製作実習○鋳造鋳造基礎実習・ 生型FM法・ アルミ溶解紙ばさみの製作	 ・各種電気部品の名称や役割を理解させる。 ・ハンダ付け作業をできるようにする。 ・電気抵抗の回路計算の方法を理解させる。 ・電気溶接の原理を知り、的確な電流の調節が出来るようにする。 ・素材から鋳造品の製作を実際に行い、鋳造について理解する。 ・鋳造法の原理を理解し、優良な鋳型の製作に習熟させる。 	下記項目にて総合的 に評価 ・実習態度 ・実習報告書 ・課題	

11	◎旋盤・切削理論と段取・旋盤の構造と基安全点検・工具	本操作	・旋盤の構造および動作原理を理解する。・各種切削法を習得する。・切削条件に合わせて安全に作業ができる。・ロボット制御をするための原理・方法を理解させる。		
12	◎ロボット制御 ・レゴブロックに ロ	よる ボット制御	 ・各種センサーの原理・役割を理解させる。 ・ロボット制御をするためのプログラムを理解し、活用できるようにする。 	下記項目にて総合 的に評価 ・実習態度 ・実習報告書 ・課題	
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

_	1 //1						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1 2	基礎加工実習(41 実習4項目をそれぞ として、ローテージ る。	れ1班10人	をふまえて、	、電子機械和	自ら考え、判断して作業できる」という目標 斗で必要と思われる基礎的な知識や基本的な	下記項目にて総合 的に評価 ・実習態度 ・実習報告書 ・課題	
3							
	3学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技術	・工業の各分野に関する基礎的な知識を身に付け、工業の発展と環境との調和の取れた在り 方や現代社会における工業の意義や役割を理解しているか。 また、安全や環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理することができる か。
思考・判断・表現	・工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して広い視野から自ら考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。
主体的に学習に取り組む 態度	・工業に関する基礎的技術について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、実践的な態度を身に付けているか。

令和4年度年間指導計画(シラバス)									
教 科 科 工業 名 名	工業情報数理	教 7実教 工業718 工業情報数理	学年組	1 2 H	単位数	2			
日標 4 情報技術検定3級合格程度の学力の到達を目指します。									

月	学 習 項 目 (単 元 名)		学習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
	第1章 産業社会と情報技術 第6章 ハードウェア 1 データの表し方		・コンピュータで扱う情報とその利用例などについて知る。 ・2進数、10進数、16進数の相互変換や2進数の四則演算、補数計算を修得し、データ表現について理解する。	中間考査の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価します。	中間
7	2 論理回路の基礎 (1)基本論理回路 (2)論理回路の応用		・基本論理回路の働きや特性について理解する。・コンピュータ内部の計算に関する回路を学び、論理回路の応用力を修得する。	期末考査の成績、 提出物の内容、学 習活動への取り 組み、態度によっ て総合評価しま す。	期末
1	2 学期授業週数	1 2		1	

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	 第3章 プログラミングの基礎 2 プログラムの作り方(1) プログラムの作成手順 (2) 問題の分析・検討 (3) 流れ図の作成 	・業務処理手順を流れ図に表現しプログラム作成の基礎を修	中間考査の成績、提 出物の内容、学習活 動への取り組み、態 度によって総合評価 します。	中

11 12	(1) Cの特徴 (2) 四則演算の	デラミング) ログラム	・配列による効果的なプログラム作成について理解する。 ・標準関数や引数や戻り値、変数の記憶域等について理解する。	期末考査の成績、提 出物の内容、学習活 動への取り組み、態 度によって総合評価 します。	期
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

	1 //1						
月	学習項			評価方法	考査 範囲		
	情報技術検定3級		• 情報技術検知	定3級合格	らに相当する力を身につける。		4-01-1
1	第2章 コンピュータ <i>0</i>	工工場作	・オペレーティンソフトウィ	学年末考査の成績、	学		
2	とソフ	フトウェア		エ / V <i>J</i> <u>4</u> 2/十	的な利用方法などについて理解する。	提出物の内容、学習活動への取り組み、	年
	2 ソフトウェア3 アプリケーシ					態度によって総合評価します。	末
3		アトウェア					
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技術	情報技術に関する基礎的な知識を持ち、社会における情報化の進展と情報の意義や役割、情報化社会に生きる技術者としての使命を理解しているか。 情報に関する基礎的な知識と技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技能を身につけているか。
思考・判断・表現	諸問題の解決を目指してみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身に つけており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができるか。
主体的に学習に取り組む態度	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけているか。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)										
教		科	ものづくり学	教	自作テキスト	学	11H • 13H • 15H • 17H	単	1		
科	工業	目		科	7 実教 工業 301	年		位			
名		名	工業技術基礎	書	工業技術基礎	組	13H	数	2		
	1. 工業に関す	る基礎	<u></u> 的技術を実験・実習によって	体験	する。	•					
年間	2. 1の体験に	基づい	で各分野における技術への興	崃•	関心を高め、工業の意義や役	割を	理解するとともに、工業に	関する	広い視野		
	を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。										
目標	3. 2について	、電気	「科では特に論理回路、電気回	路、	電気工事の基礎の確立を目指	すと	ともに、製作実習を通し、	ものつ	づくりの基		
	礎的技術を体	験する	D _o								

1 -1	产则			
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
4		を1項目1週間で実施し、1週間ごとに実習項目を交代する。 画科、機械科の生徒が電気科で実習を行う。		
5	1. 高圧実験	・商業電圧(100v)と高電圧の違いを知る。 絶縁破壊と火花放電、アーク放電、コロナ放電を体験する。		
6	2. 配線実習	・電気の配線を正しく安全に行うことを学ぶ。いろいろな配線を体験する。	実習レポートの 内容、実習への 参加の仕方や態 度などで評価す る。	
7	3. プログラミング	・ArduinoとLEDを使って2進数や16進数の特徴を知る。 C言語を使った簡単なプログラミングを体験する。		
1	12			

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
9	1. 交流波形の観測・直流 安定化回路 (コンバータ)	直流の違いを知る。 ・ダイオードを使って交流を直流に変える方法を学ぶ	実習レポートの 内容、実習への参 加の仕方や態度 などで評価する。	
	2. オームの法則		提出された課題 の取り組みの深 さにより評価す る。	
10	3. 基本論理回路	・ICを使用し論理回路を組み、論理回路の基礎について学ぶ。		

11	4. 変圧器(ト) 製作	ランス) の	・鉄心にコイルを巻いて変圧器を自作し、変圧器の仕組みに ついて学ぶ。		
	5.第二種電気	□事士技能	・電気工事の基礎作業の習得を目指す。 ・配線工事の基礎・基本を身につける。	実習レポートの 内容、実習への参 加の仕方や態度 などで評価する。	
12	6. 直流電源の製作		・制たが予して ガナー・パー・クト・クロー・クロー・クロー・クロー・クロー・クロー・クロー・クロー・クロー・クロー	提出された課題 の取り組みの深 さにより評価す る。	
	7. 電位分布		・電位分布・電位差について学ぶ。		
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

	1 791						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
1	8. 単相電力の測定		・交流では、「率や電力の測力		Eの位相にずれがあることを知り、力 いて学ぶ。	実習レポートの 内容、実習への参 加の仕方や態度 などで評価する。	
2	9. C 言語と Arc LED 制御	duino による			ミングについて学ぶ。 『入力やLED 表示の方法を学ぶ。	提出された課題 の取り組みの深	
3						さにより評価す る。	
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技術	工業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む 態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度 を身に付けている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)												
教科名	科 工業 目 工業情報数理 科 7実数 工業718												
年間目標	2 データの表し方、基本論理回路等について学習し、コンピュータにおける情報の取り扱いについて理解を深める。 3 添れ図 Cによるプログラミングについて学習し、プログラムの処理手順 表現方法についての理解を深める。												

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
5	4.情報のセキュリティ管理	・コンピュータが身のまわりのさまざまなものに組み込まれ、さらにインターネットなどに接続され利用されていることについて理解させる。・知的財産権、プライバシーの保護、ネチケットなど自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性を理解させる。	定期考査の成績、 プリント等の提 出物、学習活動へ の参加の仕方や 態度などで評価 する。	·
6	第6章 ハードウェア 1. データの表し方	・コンピュータで用いるデータの表し方について理解させる。 ・2 進数、10 進数、16 進数の相互変換ができ、・2 進数の四則演算、補数計 算をおこない、データの表現を理解する。	定期考査の成績、 プリント等の提	期
7	 論理回路の基礎 処理装置の構成と動作 	2 旧 Cixxxx (山山は5-11) imx立中的 小谷本はC シャ (大五社C C の)	出物、学習活動への参加の仕方や態度などで評価する。	
1	学期授業週数 12			

2学期

	1791			
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	第3章 プログラミングの基礎 1. プログラム言語	・種々のプログラム言語の役割と特性についてそれぞれ理解する。		
	2. プログラムのつくり方	・コンピュータを利用し遂行する業務の目標や問題を明確に認識し効率よく処理する力を養う。	学習活動への参加の	
10	3. 流れ図とアルゴリズム	************************************	仕方や態度などで評価する。	間

	第5章 Cによるこ	プログラミング			
	1. C の特徴		・簡単なプログラムによってCの特徴を理解させる。		
11	2. 四則計算のプ	ログラム	・簡単な計算プログラムによってデータ型やデータの入出力方法などを理解させる。		
	3. 選択処理		・if 文と switch 文について理解させる。	定期考査の成績、プ リント等の提出物、	期
12	4. 繰返し処理		・for 文と while 文について理解させる。	学習活動への参加の 仕方や態度などで評	
	5. 配列		・配列の宣言や使用方法について理解させる。	価する。	末
	6. 関数		・関数のつくり方、標準関数の使い方などについて理解させる。		
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

	1 / / 1						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1	情報技術検定3級 第10章 数理処理		•全工長協会情報	吸技術検定 診	は験3級合格 に相当する力を修得する。		
2	1. 単位と数理処		・量の名称・量語	定期考査の成績、フ リント等の提出物、	<i>F</i>		
	2. 実験と数理処 ″		・実験データをク 身につけさせる。		って可視化し,データの特徴を見いだす方法を	学習活動への参加の 仕方や態度などで割	
3						価する。	
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5		,	

◎評価の観点及び内容

知識・技術	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・ 活用のために必要な技能を身につけている。
思考・判断・表現	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)											
教 科 名	工業	科 目 名	ものづくり学 工業技術基礎	教科書	7 実教 工業 701 工業技術基礎 実教 新版建築実習 1·2	学年組	14H	単位数	1 2			
年間目標	2 1の体験	に基づ		術へ	って体験する。 の興味・関心を高め、工業 る意欲的な態度を身につけ			ともに				

1 =	7期				
月	学 習 項 (単 元	* * *	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
4567	ものづくり学 ・BIM 演習 ・住宅模型の製作		・BIM の基本的な操作方法について学ぶ。 BIM のアプリケーションソフトの1つである Archicad を用いて、 木造2 階建て住宅の平面図やパースを作成する。 各階平面図を柱、壁、開口部などのツールを使用し、3D モデルと連動させながら作成していく。 作成した図面を用いて外観パースや内観パースを作成する。 CAD システムの概要や特色を理解するとともに、その操作方法を身につける。 ・平屋建て住宅模型の製作 模型製作における工具の安全な使用方法の習得及び美しい切り口、正確な接合を理解する。 製作のもととなる「図面」を読む方法を身につける。	実習レポートの参加の仕方や態度など 作品の完成度 課題への取り組みの深さ	
-	学期授業週数	1 2			

2学期

月	学習項目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	工業技術基礎 ・施工実習 ・構造実習	継手の製作 日本古来の建築材料「木材」の性質を学ぶ。 木材加工における工具の安全な使用方法の習得及び 製作のもととなる「図面」を読む方法を身につける。 平屋建て木造住宅の軸組模型の製作 模型製作における工具の安全な使用方法の習得及び 軸組の構造を理解する。 製作のもととなる「図面」を読む方法を身につける。	実習レポートの内容、実習への参加の 仕方や態度など 作品の完成度 課題への取り組みの 深さ	
10				

11	• 材料実習		セメント・木材の強度試験 建材として多く使用されているセメント、木材の強度試験等を 行い、その性質について学ぶ。		
	• 情報処理実習		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	実習レポートの内容、実習への参加の 仕方や態度など	
12				作品の完成度 課題への取り組みの 深さ	
	2学期授業週数	1 5		<u>l</u>	

3 学期

_	1 / 7 / 1						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1			上記の項目につ	ついて4班編		実習 レポー トの内 容、実習への参加の 仕方や態度など	
2						作品の完成度	
3						課題への取り組みの 深さ	
3							
	3学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技術	工業に関する基礎的な知識と技術を身につけ、工業の発展と環境・資源などの調和の取れたものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技術を身につけている。
思考・判断・表現	工業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして、広い視野からみずから思考し、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現し伝える能力を身につけている。
主体的に学習に取り組む 態度	工業技術について主体的に興味・関心をもち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに、社会の発展に役立つ技術開発を積極的に学ぶ態度を身につけている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)											
教 科 名	工業 目 工業情報数理 数 7 実教 学 年 14H 位 2 書 工業情報数理 組 数											
年間目標	 2 ハードウェ 3 級計算・ 	アにま 情報技	らけるプログラム作成に関する らける論理回路・コンピュータ を依検定を取得できる知識と能 を活用する能力と態度を育っ	マ制御 と力を	周辺機器に関する基礎的な	知識	を習得する。					

月	学 習 項 (単 元	•	学習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
	第1章産業社会と情報・情報化社会の権利。・情報のセキュリティ ・情報のセキュリティ 第6章ハードウェア ・データの表し方	とモラル	 ・コンピュータで扱う情報とその利用例などについて知る。 ・知的所有権、プライバシーの保護など情報管理について理解する。 ・コンピュータシステムの保全(ウイルス)対策について理解する。 ・コンピュータで用いるデータの表し方について理解する。 ・2進数、10進数、16進数の変換方法を理解する。 	授業への取り組 み方、提出物およ び考査の結果を 総合的に判断す る。	中間
6	第6章ハードウェア ・論理回路の基礎 ・論理式			授業への取り 組み方、提出物お よび考査の結果 を総合的に判断	期
7				する。	末
1	1 学期授業週数	1 2			

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	第3章プログラミングの基礎 ・プログラムの作成手順 ・流れ図の作成	・ 大学生子順をかはUMIC衣先しノログノムFFTXUZ監旋を理解する。	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に 判断する。	中

	第5章 C によるプログラ ・四則計算のプログラ		・算術計算のプログラムにおけるプログラムの書式やデータ型、演算子な		
	・選択処理・繰返し処理		どについて理解する。 ・選択、繰り返し処理について説明し、実際にプログラムが作成できるよ		
	・配列			授業への取り組み	
	・関数			方、提出物および考	
			・標準関数や引数や戻り値、変数の記憶域等について理解する。	査の結果を総合的に	
12				判断する。	-
					末
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

月	学 習 項 (単 元			評価方法	考査 範囲		
	第2章コンピュータ ソフトウェア ・ソフトウェアの基 ・アプリケーション	礎	・ソフトウェアの		ンソフトウェアがあるか理解する。	授業への取り組み 方、提出物および考 査の結果を総合的に 判断する。	子
	3学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

知識・技術	・情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技能を身につけている。
思考・判断・表現	・諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	・情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むと ともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)										
教 科 名	工業	科目名	ものづくり学 工業技術基礎	教科書	7実教 工業701 工業技術基礎	学年組	11,13,17H 15H	単位数	1 2		
年間目標	2 工業に関	する基	こる実習に集中して取り組み 基礎的技術を実験・実習に。 いせるとともに、工業に関	よっ	て体験させ、各分野におけ	lるŧ	技術への興味・関心を高る		業の意義		

1 =	学期				
月	学 習 ⁵ (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
5	 【機械系】 ・ノギスの理論と・マイクロメータの理・かたさ試験 ② 手仕上げ・けがき作業・切断作業・切削作業 ③ 溶接 	で 使い方 論と使い方	 ・各種の測定器の名称と構造を理解させ、的確な寸法測定ができる。 ・基本的な工具の使用方法を習得させるとともに工具名や特徴等を学習する。 ・かたさ試験法を学習し、硬さを測定することによって機械的性質を理解する。 ・けがきの仕方を習得する。 ・切断工具、切削工具の使い方を理解する。 ・ヤスリを用いた切削を行い、寸法を考慮した手仕上げ加工を習得する。 ・ドリルを用いた穴あけ作業を習得し、卓上ボール盤の各部の名称、基本的な穴あけ作業の手順を理解する。 ・軸にダイスでおねじを切る作業と穴にタップでめねじを切る作業を理解し、ねじ切りができる。 ・高圧下における電気現象を見ることによって電気の性質・現象を学ぶ。 ・配線図から回路を作る技術や、回路の考え方を学ぶ。 ・エコである LED について学ぶとともに、はんだ付け技術を学ぶ。 	レポートの内容、 実習への参加の 仕方や態度など	
7	【建設系】 ①水準測量 ②橋梁模型の製化 ③水質検査 【工芸デザイン系】 ② 筆デッサン ②ロゴマーク ③ 立体構成		 ・レベルの取り扱いがじゅうぶんにできる。 ・スタッフを正確に読むことができ、高低差の計算ができる。 ・地盤高の計算ができる。 ・橋梁の種類や特徴を理解する。 ・図面を見て角材を寸法通りに加工できる。 ・部材を組合せ、橋梁の模型を製作できる。 ・水質検査の原理と方法を理解する。 ・検査結果から環境の評価ができる。 ・透視図法を理解して、円錐と角柱の複合形体をスケッチブックに鉛筆を使って描く。 ・グラデーションを理解し、対象物に当たる陰影を明暗の対比効果としてとらえ、陰影表現をもとに立体の表出について学ぶ。 ・スチレンボードを使い、自分の名前をモチーフにした立体構成をする。 	仕方や態度など	
	1 学期授業週数	1 2			

2学期

	1 291				
月	学 習 項 (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9 10 11 12	(1)材料力学 コンクリートの配合 げ・圧縮強度試 (2)橋梁模型の製作 トラス橋の模型	検を行う。	・トラス構造の特徴や土木構造物への用いられ方を理解し、各部材 の構成や位置関係を把握する	実習レポートの内容、実習への参加の 仕方や態度など 課題への取り組みの 深さ	
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

J	1 29 1						
月	学習項(単元:			評価方法	考査 範囲		
1	(3)情報処理 パソコンアプリケー 本的操作を学ぶ。 (4)基礎化学	ーションの基	・文書や表の	作成、プレハで質量/	rpoint」の基本的な機能を理解する。 ・ゼンテーション画面の作成ができる。 ペーセント濃度と密度の計算方法、両	実習レポートの内容、実習への参加の	
3	班別実習(4班編成) (1)材料力学 (2)橋梁模型の製作 (3)情報処理 (4)基礎化学 1 班 10 名でローテー	•			⊧りる。 ≤反応について理解する。	仕方や態度など 課題への取り組みの 深さ	
	3学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技術	工業に関することについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ課題を解決する力を身に付けている。
	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)									
教 科 名	科 工業 目 工業情報数理 科 7実教・工業718 工業情報数理 年 15H 位 2									
		表した	5、論理回路、処理装置等	につ	ハて学習しコンピュータに	こおり	ける情報の取り扱い方につ	ついて	理解を深	
年間	Z									
目標										
	4 全工長協力	会情報	致技術検定3級合格程度の	学力:	到達を身に付ける。					

月	学 習 項 (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
5	1章 産業社会と情 1 情報と生活 2 コンピュータ 3 コンピュータ 4章 ハードウェア 1 処理装置と周 2 データの表 3 論理回路の基	の特徴 の発達 辺装置 方	 ・コンピュータの基本的な操作や活用の歴史、現代の利用等について理解する。 ・コンピュータネットワークを中心として、情報機器の活用方法を歴史とともに学ぶ。 ・2進数、10進数、16進数の相互変換や2進数の四則演算、補数計算を習得しデータの表現を理解する。 ・コンピュータ内部の計算に関します回路を学び論理回路の応用力を習得する。 ・基本論理回路の働きや特性について理解する。 	授業への取り組	中間
6				授業への取り組 み方、提出物およ び考査の結果を 総合的に判断す る。	期
	1 学期授業週数	1 2			

2学期

	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
2 プロ2 3 アル	グラム言語 グラムのつくり方 ゴリズムと流れ図 グラミングの基礎		授業への取り組 み方、提出物およ び考査の結果を 総合的に判断す る。	中間

11 12	6 選択処理 7 繰返し処理 8 プログラミン	/グの応用	・分岐、繰り返し処理について理解し、実際にプログラムを作成できる能力を身につける。 ・配列による効果的なプログラム作成について理解する。 授業へのこみ方、提出 び考査のう	物およ結果を
				末
	2学期授業週数	1 5		

3 学期

O	1 29 1						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
2	2章 コンピュー とソフトウ 1 章産業社会と情 5 情報化社会のモ	ェア	ける。 ・ワープロ、 する。	長計算など 人情報保護	定3級合格に相当する情報技術を身につ アプリケーションソフトの使い方を理解 などについて理解しながら行う情報管理		年
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

知識・技術	情報に係わる各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身 に付けている。
思考・判断・表現	情報社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に 解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む 態度	情報に関する諸事象について関心をもち、社会の改善・向上を目指して、自ら学び、工業の発展に主体的・協働的な態度および創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)									
教 科 名	工業	科目名	工業技術基礎	教 科 書	国際文化カレッジ出版部 用語集改訂版 書体サンプル集	学年組	16H	単位数	2	
年間目標	年間 工業に関する基礎的な技術を実験や実習によって体験し、各分野における工業技術への興味・関心を高め、工業の意義 や役割を理解させ、広い視野と倫理観を養い、工業の発展をはかる意欲的な能度を身につけさせる。									

T 主	-79 1			
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
4 5 6	【レタリング】 1. 基本書体と字体 1. 明朝体・ゴシック体 和文 (永字八法) 2. ローマン・サンセリフ 欧文・数字	・漢字やカナ、アルファベットなどについて、明朝体やゴシック 体などの特徴を理解し、基本的な文字が描ける。 「永字八法」の学習を通して、基本画線が描ける。		
7	 水張り 文字の構成と着彩 		課題への取組み 状況と制作態 度、意欲	
	1. 溝引きと混色 2. 文字の構成	「溝引き棒と直定規」を使った直線引きが正しくできる。・ムラ、無駄のない着色ができる。・文字を使った創造力豊かな画面構成ができる。	課題の提出	
1	学期授業週数 12			

2学期

	1.79 1			
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	班 交 替 【レタリング】			
10				

11	班 交 替 【レタリング】			
12				
	2学期授業週数	1 5		

3 学期

	1 1/41						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
1	【レタリング】						
2							
3							
	3学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

知識・技術	・レタリングパネルの制作を通して、使用する用具に関する基礎知識と技術を身につけている。
思考・判断・表現	・レタリングパネルの制作を通して、使用する用具や材料を適切に扱う能力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む 態度	・レタリングパネルの制作に興味・関心を持ち、主体的かつ意欲的に学習に取り組む態度を身に つけている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)													
教		科		教	実教 701	学		単						
科	工業	目	工業技術基礎	科	工業技術基礎	年	16H	位	2					
名		名				組		数						
年間目標	年間 工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、伝統的な工芸分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させるとともに、工業に関する広い視野と倫理観もって工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。													

1 学	丝期 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)			
月	学習項目(単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	範囲
4 7	【ガイダンス】 1 工業技術基礎を学ぶにあたって 2 人と技術と環境 ① 社会生活と産業 ・産業構造と就業構造 ・職業選択と職業資格 ② 工業生産と製造業 ③ 工業技術による国際貢献 ④ 人と環境 ・人と環境のかかわりかた ・人と環境に配慮した工業技術 ⑤ 産業財産権と著作権 ・産業財産権のいろいろ ・著作権について 3 事故防止と安全作業	【人と技術と環境】 ○人と技術 人と技術のかかわりについて、産業社会、職業生活、産業技術に関する調査や見学を通して具体的に理解させるとともに、関連する職業資格及び知的財産権についても理解させる。 ○環境と技術 工業材料のリサイクルなどの身近な事例を取り上げ、実際の作業を通して、環境保全についての関心を高めさせる。また、工業技術が地球環境の保全に果たしている役割について、その意義や必要性を理解させるとともに、地球環境保全に向けて主体的に行動することの重要性について理解させる。。	課題制作への取り組み状況や態度、意欲などで評価する。 課題及び提出品の取り組みの内容により評価する。	
	【基本作業】 [第3 班 No.21~30] 8 鋳造の方法 ① 鋳造法の基礎知識 ・鋳造法の種類 ・溶解炉 【ペーパーウエイトの製作】 1 デザイン画の作成 2 油土による原型の製作 3 離型剤の塗布 4 容器の準備 5 鋳造用石膏の流し込み 6 鋳造用石膏からの型あげ 7 低溶融合金の鋳込み 8 製品の取り出し 9 仕上げ	【基礎的な加工技術】 ○形態を変化させる加工 金属や非金属など固体状の原材料 を用いて、切削加工、成形加工、接合 ・切断加工など、形態を変化させる加工 の基礎的な技術を習得させる。 ○質を変化させる加工 混合、融解、相変化、化学反応など 質を変化させる加工の基礎的な技術 を習得させる。		

1学期授業週数

12

2 学期

	<u> </u>	学习のよう (仕会)		<i>k</i> /- 111
月	学習項目(単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	範囲
9 12	【基本作業】 [第3 班 No.11~20] 8 鋳造の方法 ① 鋳造法の基礎知識 ・鋳造法の種類 ・溶解炉 【ペーパーウエイトの製作】 1 デザイン画の作成 2 油土による原型の製作 3 離型剤の塗布 4 容器の準備 5 鋳造用石膏の流し込み 6 鋳造用石膏からの型あげ 7 低溶融合金の鋳込み 8 製品の取り出し 9 仕上げ	【基礎的な加工技術】 ○形態を変化させる加工 金属や非金属など固体状の原材料 を用いて、切削加工、成形加工、接合 ・切断加工など、形態を変化させる加工の基礎的な技術を習得させる。 ○質を変化させる加工 混合、融解、相変化、化学反応など 質を変化させる加工の基礎的な技術 を習得させる。	課題制作への取り組み状況や態度、意欲などで評価する。 課題及び提出作品の取り組みの内容により評価する。	
1				

3 学期

2学期授業週数

15

	了:別							
月	学習可	頁目(単	元名)			学習のねらい(内容)	評価方法	範囲
1 3	【基本作業】 [第3 8 鋳造の方法 ① 鋳造法の ・鋳造法の ・溶解炉 【ペーパーウエイ 1 デザイン画の 2 油土による原 3 離型剤の準イ 4 容器の単備 5 鋳造用石石膏が 6 鋳造用る金の 8 製品のり出 9 仕上げ	基礎知 トルイン トルー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	職 作】 製作 込み 込みげ	- ○ 刑 を で	が態を を を は を は の を に で る に で る に で る に る た る で る た る る る る る る る る る る る る る る	を加工技術】 変化させる加工 や非金属など固体状の原材料 て、切削加工、成形加工、接合 加工など、形態を変化させる加 礎的な技術を習得させる。 化させる加工 、融解、相変化、化学反応など 化させる加工の基礎的な技術 させる。	4 つの観点から 評価した1 学期 の成績、2 学期の 成績及び 3学期 の成績を総合し、 年間の学習成績 とする。	
	3学期授業週数	8	年間授業週数		35			

知識・技術	伝統的な工芸作品に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、より独創性・創造性に富んだ制作品に実際に活用することができるか。 各工程に求められる技術を的確に行うことができるか。 制作工程を進める上での材料や用具に対する知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解し、制作品に実際に活用することができるか。
思考・判断・表現	伝統的な工芸作品に関する基礎的な技術や知識を活用し、環境に配慮しつつ、より高度な作品作りへの応用力を身に付け、主体的・合理的に解決しているか。 使用する用具や材料に関する知識を理解し、適切に扱う能力を身に付けているか。
主体的に学習に取り組む態度	伝統的な工芸作品の制作に興味・関心を持ち、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態 度を身に付けているか。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)												
教 科 名	工業	科目名	工業技術基礎	教科書	7 実教・ 工業 701 工業技術基礎	学年組	1 6H	単位数	2				
年間目標	年間 1 身近で簡単な道具の研究・制作を通し、道具の機能性やデザインについて理解することができる。 2 削除法による工作方法を理解することができる。												

	1-291			
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
	道具の目的と機能性について 削除法による造形法について 制作行程 ① 使用目的や場面設定	る。 ・造形法の一つである削除法について理解させる。	授業への取り組 み方、提出物の結 果を総合的に判 断する。	
5	② アイディアスケッチ ③ 木材の木取り	・糸鋸の使用方法を理解し、所定の寸法に正確に切断できる。 ・加工場面に合った道具を選択し、安全に効率よく加工する ことができる。 ・研ぎムラがなくなるように研磨することができる。		
6	④ 切削加工⑤ 研磨⑥塗装			
7				
-	1 学期授業週数 1 2			

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	(班交替) 道具の目的と機能性について 削除法による造形法について 制作行程 ① 使用目的や場面設定 ② アイディアスケッチ ③ 木材の木取り ④切削加工	న <u>.</u>	授業への取り組み 方、提出物の結果を 総合的に判断する。	

⑤研磨 ⑥塗装 (班交替) 道具の目的と機能 削除法による造形 制作行程 ① 使用目的や場	法について	·	授業への取り組み 方、提出物の結果を 総合的に判断する。	
2学期授業週数	1 5			

3 学期

	1 \(\lambda \)						
月	•	学習項目 (単元名) 学習のねらい (内容)					
1	② アイディア③ 木材の木取④ 切削加工⑤ 研磨⑥ 塗装		・使用目的に・使用目的を対・糸鋸の使用力・加工場面にするとができ	授業への取り組み 方、提出物の結果を 総合的に判断する。			
3	2 ・研ぎムラがなくなるように研磨することか				くうに研磨することができる。		
	3 学期授業週数	年間授業週数	3 5				

知識・技術	・製作にあたって使用する工具や材料を安全且つ適切に使用しているか。・各工程に求められる技能を的確に選択して行うことができるか。
思考 ・ 判断・表現	・工芸に関する基礎的な技術や知識を活用し、より良い作品への応用力を身につけているか。・作品の構想について、独創性、創造性はあるか。
主体的に学習に取り組む 態度	・工芸作品の制作に興味・関心を持ち、意欲的に態度を身につけているか、実習への参加の仕 方や態度、課題への取り組み状況、課題提出により評価する。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)											
教 科 名	工業	科目名	工業情報数理	教 科 書	実教 工業 719 精選工業情報数理	学年組	16H	単位数	2			
年間目標	年間 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。											

	1 791			
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
5	第1章 産業社会と情報技術 1節 情報と生活 2節 コンピュータの特徴 3節 コンピュータの発達 4節 情報化の進展と産業社会 1 日常生活におけるコンピュータ 利用 2 産業社会におけるコンピュータ 利用 5節 情報化社会のモラルと管理 1 知的財産権 2 使用許諾契約 3 プライバシーの保護	○情報のモラル	中間考査と成績、 課題作品、学習活 動への参加の仕 方や態度などで 評価する。	中間
6	4 個人の責任 6節 情報セキュリティーの管理 1 コンピュータの不正利用対策 2 コンピュータウィルス 3 情報の不正利用防止 4 コンピュータの誤動作や障害 第4章 ハードウェア 1節 処理装置と周辺装置 1 コンピュータの構成 2 処理装置と周辺装置 2 処理装置と周辺装置 2 続 データの表し方 1 数値の表し方 2 情報のディジタル化 3節 論理回路の基礎 1 論理回路の基本 2 加算回路	【コンピュータの基礎】 ○数の表現と演算 数値表現と演算、文字表現、論理演算について理解させ、実際に活用できるようにする。 ○論理回路 OR、AND、NOT、NANDなどの回路の動作やこれらの組合せによる回路について理解させ、実際に活用できるようにする。 ○コンピュータの動作原理 論理・演算装置、主記憶装置、制御装置などの構成と動作について、コンピュータを具体的に取り上げて理解させ、実際に活用できるようにする。各種入出力装置、補助記憶装置などの周辺装置についても取り上げ、実習などを通して実際に操作しながら、構成や基本的な動作について理解させる。	期末考査の成績、 課題作品、学習活 動への参加の仕 方や態度などで	
	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 1節 コンピュータの基本操作 1 コンピュータの起動と終了 2 キーボードの基本操作 3 マウスの基本操作 4 記憶装置の取り扱い 1 学期授業週数 1 2			

2学期

2	学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	第3章 プログラミング 1節 プログラム言語 1 プログラム言語の2 2節 プログラムのつく 1 問題の分析・検討 2 流れ図の作成 3 プログラミングと グ 3節 アルゴリズムと流れ 1 流れ図 2 アルゴリズム 4節 プログラミングの3 1 かんたんなプログ	分類 りかた = 実行・デバッ れ図 基礎 ラム		中間考査と成績、 課題作品、学習活 動への参加の仕 方や態度などで 評価する。	中間
11 12	2 プログラムの作成。 5節 順次処理 1 データの出力 2 データの入力 3 組込み関数の利用 6節 選択処理 7節 繰返し処理 1 一定回数の繰返し 8節 プログラミングの 1 データの読取り 2 配列 3 文字データ	処理	○基本的なプログラミング基本的なアルゴリズムを活用した効果的なプログラムの作成方法について	課題作品、学習活動への参加の仕 大や能度などで	期末
	2学期授業週数	1 5			

3 学期

月	学習項 (単 元 名	•		学習の	かねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1	第2章 コンピュータの基 トウェア2節 ソフトウェアの基 1 ソフトウェアの分 2 プログラム作成	礎 類	○ソフトウェアの 文書処理、表	グシステム ンシステム 利用 計算、プレ	への基礎 への種類と役割について理解させる。 〜ゼンテーションなどのアプリケーシ ニげ、利用に必要な基本的な操作がで		学
2	トウェア 3節 アプリケーション 1 日本語ワードプロ 2 表計算ソフトウェ 3 図形処理・CADン	セッサア	きるようにする 【情報技術の活用】 ○情報の収集と活	用	この、利用に必要な基本的な探信がで)、多くの情報の中から、望ましい情	から評価した1学 期の成績、2学期 の成績及び3学期	'
3	4 プレゼンテーショトウェア		報を正しく判断 整理、分析、表	し選択でき 現及び発表	くるようにする。 適切な情報の収集、 そをさせるため、 わかりやすいドキュ まも取り上げるようにする。	年間の学習成績とする。	末
	3学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

上 知識•技術	情報技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解しているか。 情報技術に関する基礎的・基本的な技術を身に付けているか。
思考・判断・表現	情報技術に関する諸問題を、環境に配慮しつつ、主体的・合理的に解決しているか。
主体的に学習に取り組む 態度	情報技術に関する関心、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を身に付けているか。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)										
教 科 名	工業	科目名	工業技術基礎 (エアブラシ)	教科書	7 実教工業 701 「工業技術基礎」 およびプリント	学年組	1 7	単位数	2		
年間目標			確的な技術を実際の作業を 方を理解させ、作品制作に		、様々な造形活動に主体的に る能力を身につけさせる。	応用	できる能力と態度を身につ	けさせ	·る。		

1	1 - 19 1				
月	学 習 項 (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
4	ものづくり学Aと	さして展開	機械科、電気科、土木環境科の実習を体験。「ものづくり」について、広く学ぶ。		
5					
6					
7					
	1 学期授業週数	1 2			

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	工業技術基礎 コース課題『エアブラシ』 (第1班)	表現技法の1つである「エアブラシ」の実践で、基本的な立体物の描写を行う。 今後の課題制作に必要なパネルの水貼りの意味を知り、 仕方を習得する。また画材や道具に興味をもち、正しい扱い方を身につけ、立体表現でのバランスや快い配色などを考えながら制作する。 1)パネルの水張り、エアブラシの基本の学習 2)基本的な立体物の描写と、マスキングの方法の学習、広い面積でのぼかしの表現の習得 3)光と陰による球体の表現の習得、作品の修正		

11	(第2班)		以下、班交代による学習。4 班編制	
12			ワークシートやアイ デアスケッチ、授業 態度、作品、コンセ	
	(第3班)		プトによる総合評価	
	2学期授業週数	1 5		

3 学期

月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1 2	(第4班)					ワークシートやアイ デアスケッチ、授業 態度、作品、コンセ プトによる総合評価	
3							
	3学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

知識・技術	道具について理解し、自分の表したい効果を出すための工夫を繰り返す中で技術を身に付けている。
思考・判断・表現	作業工程の一連の流れや完成のイメージをもち、注意すべき点などを工夫する力を身 に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい作品を目指して自ら行動して学び、作品制作に対する心構えや、自分の作品を大切に扱う態度を身に付けている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)											
教 科 名	工業 (デザイン・絵画科)	科 目 名	工業技術基礎 (レタリング)	教科書	プリント等で対応	学年組	1 7	単位数	2			
年間目標	デザインに関する基本的	かな知識と	技術を学び、実	際の制作	において応用し創造す	る能力	力と態度を身	に付い	ける。			

17					
月	学 習 項 (単 元	• •	学習のねらい(内容)	評価方法	考査 範囲
4	※4班編成のローン	ーテーショ			
	・レタリング(・レタリングの意義や基本的な知識・技術を学ぶ。		
	・レタリングの	の基礎知識	・レクリングの息我で基本的な知識・1文字で。	・学習活動へ	
5	・和文		・和文(漢字・平仮名・カタカナ)の特徴や描き方を学び、 サンプルをよく観察しながら描く。	の参加の仕 方や態度で 評価します。	
6	・ロゴマーク		自分の名前とマーク・イラストを組み合わせ、 オリジナルのロゴマークを制作する。		
	・欧文		・欧文(アルファベットの大文字・小文字・数字)の 特徴や描き方を学び、サンプルをよく観察しながら描く。 形が描けたらスペーシング(文字の間隔の調整)を行う。	それぞれの 段階と最終 的な作品の 完成度で評	
7	・絵の具による仕上げ		・全ての文字・マークを一枚のケント紙にトレースし、 アクリル絵の具により美しく仕上げる。	価します。	
1	1 学期授業週数	1 2			

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
	・レタリング(2班) 同上	同上		
9			同上	
			印上	
10				

11	・レタリング(3 班) 同上	l.	同上		
12				同上	
	2学期授業週数	1 5			-

3 学期

	1 / / / 1						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1	・レタリング(4班 同上	;)	同上				
2						同上	
3							
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

知識・技術	道具や材料について知識を深め、創造的で完成度の高い技能が身に付いているか。
思考・判断・表現	デザインに関する知識と技術を活用して、適切に判断し、創意工夫して表現する能力が身に付いているか。
主体的に学習に取り組む態度	デザインに関する専門分野の事項について関心を持ち、主体的に制作に取り組み、完成度の 高い作品を完成させようとする態度が身に付いているか。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)										
教 科 名	工業 科 日 工業技術基礎(表現技法) 教 科 デザイン実践 年 組 学 年 組 17H 位 数 3							3			
年間	・デザイン、	絵画に	- 関する基礎的な技法を実	寒の	制作を通して総合的に学習	まする	పే.				
目標	対象をよく	観察し	、分析する能力を身につ	oけ、 [、]	テーマに沿った表現を心搏	計ける	5.				

1 =	"别				
月	学 習 項 (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
5	(単 元 〈ものづくり学 コース課題 〈表現技法〉		向上を目指す。 (1)表現技法について学ぶ。 (マーブリング ドリッピング フロッタージュ	授業への取り組 み方、提出物の結 果を総合的に判	範囲
6			コラージュ、パピエコレ、スクラッチ、スケッチ等) (2) サンプル作り、溝引き (3) スケッチ、情報収集、アイデア、構成 (4) 下描き (5) 着彩、レイアウト、貼付、仕上げ	断する。	
7			・講評会		
1	1 学期授業週数	1 2			

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
		4 班共通		
9	コース課題	同内容を4班ローテーションで実施		
	(1 班)		授業への取り組み方、提出物の結果を	
	(2 班)		総合的に判断する。	
10				

			4 班共通	
	コース課題		同内容を4班ローテーションで実施	
11	(3 班)			
	(0 9)1)			
				授業への取り組み
12				方、提出物の結果を 総合的に判断する。
		ı		
	2学期授業週数	1 5		

3 学期

	* //*						
月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1	<鉛筆デッサン> コース課題 (4 班)		4 班共通	同内	7容を4班ローテーションで実施	授業への取り組み	
2	(19)33					方、提出物の結果を総合的に判断する。	
3							
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

7 1 7. 4 4 4 4	工業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに, 関連する基礎的な技術が 身についている。 表現技法に関心をもち、意欲的に作品制作に取り組むことができる。
思考・判断・表現	工業に関する課題を発見し,職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決 する力が身についている。
	よりよい社会を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。

	令和4年度年間指導計画(シラバス)										
教 科 名	工業(デザイ ン・絵画)	科目名	工業技術基礎立体構成	教科書	7 実教工業技術基礎 701 およびプリント	学年組	1 7	単位数	3		
	・デザインに	関する	る基礎的な技術を実際の)作業	美を通して、様々な造形	活動	こ主体的に応用できる能	力と	態度を身		
年間	につけさせ	る。									
	・画材、用具	等の値	赴い方を理解させ、作品	制作	■に活用する能力を身に~	つけさ	させる。				
目標											

17					
月	学 習 項 (単 元		学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
5	ものづくり学A			課題 授業態度等	
6	↓				
7	班別学習 「立体構成」		スチレンボードによる立体構成「文字をつくる」 スチレンボードを使用して文字の構成と、抽象表現による立 体構成を行い、空間把握、立体構成の基礎を学習させる。 カッターナイフや接着剤の使い方を確実に習得させる。		
1	1 学期授業週数	1 2			

2学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	班別学習 「立体構成」		課題 授業態度等	
10				

11	班別学習 「立体構成」	同上		
12			課題 授業態度等	
	2学期授業週数 15			

3 学期

月	学習項(単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1 2	班別学習「立体構成」		同上			課題授業態度等	
3							
	3学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

知識・技術	工業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに, 関連する技術を身に付け ている。
思考・判断・表現	表現しようとするものの形を整理し、立体で表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	・積極的に表現活動に取り組み、根気強く制作することができる。 ・知識や技術を意欲的に吸収しようとする態度が身についている。

教				令和4年度年間指導計画(シラバス)											
名	工業 科目名 工業情報数理 教科書 7実教工業719 特選工業情報数理 学年組 17H 位位数 2														
年間 2 ラ 3 % 目標	2 データの表し方、基本論理回路等について学習し、コンピュータにおける情報の取り扱いについて理解を深める。 3 添れ図 Cによるプログラミングについて学習し、プログラムの処理手順、表現方法についての理解を深める。														

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
5	第1章 産業社会と情報技術 1. コンピュータの構成と特徴 2. 情報化の進展と産業社会 3. 情報化社会の権利とモラル 4. 情報のセキュリティ管理	・コンピュータが身のまわりのさまざまなものに組み込まれ、さらにインターネットなどに接続され利用されていることについて理解させる。・知的財産権、プライバシーの保護、ネチケットなど自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性を理解させる。	定期考査の成績、 プリント等の提 出物、学習活動へ の参加の仕方や 態度などで評価 する。	·
6	第6章 ハードウェア 1. データの表し方	SHE TOCK () / VAN DIEZETH) NO	定期考査の成績、 プリント等の提	期
7	 論理回路の基礎 処理装置の構成と動作 		出物、学習活動への参加の仕方や態度などで評価する。	
1	学期授業週数 12			

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
9	第3章 プログラミングの基礎 1. プログラム言語	・種々のプログラム言語の役割と特性についてそれぞれ理解する。		
	2. プログラムのつくり方	・コンピュータを利用し遂行する業務の目標や問題を明確に認識し効率よく処理する力を養う。	定期考査の成績、ブリント等の提出物、 学習活動への参加の 仕方や態度などで評	
10	3. 流れ図とアルゴリズム	************************************	仕力で感及なるで計 価する。	間

	第5章 Cによるプ	ログラミング		_	
	1. C の特徴		・簡単なプログラムによってCの特徴を理解させる。		
11	2. 四則計算のプロ		・簡単な計算プログラムによってデータ型やデータの入出力方法などを理 解させる。		
	3. 選択処理		・ if 文と switch 文について理解させる	定期考査の成績、プ リント等の提出物、	期
12	4. 繰返し処理		・for 文と while 文について理解させる。	学習活動への参加の 仕方や態度などで評	
	5. 配列		・配列の宣言や使用方法について理解させる。	価する。	末
	6. 関数		・関数のつくり方、標準関数の使い方などについて理解させる。		
<u>-</u>	2学期授業週数	1 5			

3 学期

月	学 習 項 (単 元			学	習のねらい (内容)	評価方法	考査 範囲
1	情報技術検定3級 第10章 数理処理		・全工長協会情報	服技術検定詞	は験3級合格に相当する力を修得する。		
2	1. 単位と数理処 2. 実験と数理処	理		定期考査の成績、フ リント等の提出物、 学習活動への参加の	<i>F</i>		
3	<i>"</i>		身につけさせる。			仕方や態度などで評価する。	末
	3 学期授業週数	8	年間授業週数	3 5			

知識・技能	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技能を身につけている。
思考・判断・表現	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。